

今より一歩、
心地良い暮らしを考える。

内窓がもたらす快適さと、 過ごす空間への意識の変化。

7町エリア 限定配布

ニ
ユ
ー
ト
ラ
ル

Neutral
News

No.01

となりの

ニ
ユ
ー
ト
ラ
ル

となりのニュートラルは、近所のあの人が取り組んでいる、暮らしを豊かに心地よくし、環境にもやさしい工夫をお伝えします。今回お話を聞きしたのは、「studio36 一級建築士事務所（以下：studio36）」共同代表であり、「南康生家守舎」代表として「偶偶（ぐうぐう）」の運営もおこなう建築家の畑克敏さん。偶偶内の自社オフィスとシェアキッチンに内窓（二重窓）を導入したことについて話を伺いました。

内窓の設置が 環境と考え方も変化させる

当初の偶偶は、鉄骨ビルと古民家をリノベーションした空間で、夏は暑いし、冬はとにかく寒い状態だったそう。「窓の近くに座ると背中がしんと冷える。エアコンをつける我慢できるけど、風が顔に当たって心地よくない」と環境づくりに悩んでいました。そこで畑さんがまず着手したのは内窓（二重窓）の設置でした。「室内が18度のとき、外窓と内窓の間に置いた温度計の表示は3度。つまり去年は3度の環境で働いていた」と苦笑いする畑さん。



自分の空間に 意識的になることの大切さ

「一度に全部やろうとすると金額も大きくなる。少しずつ改善しながら次の一手を考えるのが無理のない方法」と畑さん。内窓設置をきっかけに、天井への断熱や入口扉への断熱材の貼付けなど、次々と快適にするためのアイデアが生まれているそう。建築のプロとして断熱の理論は知っていても「自分の環境を改善することって、違うスイッチが入らないとやらない」と畑さんは語ります。環境への配慮も大切ですが、まずは自分の生活を心地よくすることが大切。「自分の空間に意識的になることが大きな一歩。ちょっとした快適な空間にしようという意識が生まれると、それが周りにも広がっていく」そうです。

内窓は「冬に寒さを感じやすい方、窓際が寒くて困っている方、夏の冷房効果を高めたい方、騒音に悩んでいる方におすすみ」と畑さん。一般的な窓で一箇所につき10〜15万円程度の初期費用がかかりますが、「長い目で見れば光熱費の削減につながる、何より快適に過ごせることの価値は大きい」と語ります。

窓を変えることから始まる心地よい暮らしと自分の過ごす空間を自分ごとにする大切さ。畑さんの取り組みから、快適に過ごすだけでなく、生活の質を自分で意識的に高めていくヒントが見えました。

内窓を設置後は外側の擦りガラス窓だけ開けて、内側窓は閉めておくという使い方も可能になり、寒さが軽減されるうえに眺めも良く、外に開くという自社の考えも体現しやすくなりました。さらには、スタッフの意識にも変化が見え始めたそう。以前は、寒いのは仕方がないと諦めていましたが、自分たちで快適な空間はつくれるという意識が芽生え、働く環境について自分たちで積極的に考えるようになりました。「暑い寒いに意識的になっただけか、諦めなくなっただけか大きい」と畑さんは強調します。



studio36 共同代表 畑克敏さん

こんにちは、 ニュートラルニュースです。

はじめまして、新しい地域情報紙「ニュートラルニュース」です。こちらでは中心市街地の7町エリア(亀井・籠田・連尺・東康生・南康生・唐沢・伝馬一丁目)で暮らす人や働く人たちの「今より一歩、心地よい暮らし」についてお届けします。

「家の中で快適に過ごしたい」「光熱費を減らしたい」「災害時の備えが気になる」など、暮らしの中で感じる不安や悩みはありませんか？ そうした日々の暮らしを見直すことで、より快適に、そして賢く過ごせる方法がたくさんあります。

例えば、窓を二重にすると冬は暖かく夏は涼しく過ごせ、外の騒音も軽減され集中できる空間に。また、断熱性を高めるとヒートショックなどが防げるケースも。太陽光発電や蓄電池は電気代を抑えながら、万が一の災害時にも安心をもたらしてくれます。

そんな「心地よさ」と「賢さ」を両立させた「暮らしの工夫」をしている方々が、実はこの7町エリアにもいらついています。このニュースでは、そんな顔の見える身近な方々の取り組みを毎月お届けします。ご近所では、どんな工夫をされているのか、実際にどんな変化があったのか。身近な事例から、暮らしをより良くするヒントを見つけていただけたら

嬉しいですよ。

「ニュートラルニュース」という名前には、3つの意味が込められています。

1つ目は、「ニュートラル(自然体)」で心地よく暮らすこと。無理や我慢ではなく、自分らしく快適に過ごすための情報をお届けします。

2つ目は、これからの暮らしの「ニュートラル(標準)」を考えること。今は新しく感じることも、広がっていけば、いつか当たり前の選択肢になります。

3つ目は、結果として「カーボンニュートラル」にもつながること。心地よく暮らすための多くの工夫が、実は環境にやさしい取り組みになっていることも。中心市街地の7町エリアは、「脱炭素先行地域」として国のモデル地区として選定されています。脱炭素への取り組みを進めることで、中心市街地を環境にやさしいまちにするという目標にもつながっていきます。

ただ、環境のことを第一に考えるよりは、まずは「心地よさ」を求めることから始めてみませんか？ 本紙を通じて、暮らしの質を高める小さな一歩のお手伝いができれば嬉しいです。毎月ご近所の取り組みをお届けするので、あの人ややっているなら試してみようかと思える暮らしのヒントを一緒に見つけていきましょう。

まちなか ニュートラル

普段だと捨ててしまおう 残り紙の種類の多さを 活かした商品

ここでは、まちなかにあるちょっと環境を考えた身近な取り組みをご紹介します。今回は、亀井町で創業百年を超える印刷会社の永田印刷所。

永田印刷所は、市内外のパンフレットやチラシ、名刺や封筒など幅広い印刷物の企画・デザイン、印刷をおこなう会社。また、用紙の裁断の際に出る切れ端や、端材余材である残紙を活用した「ZANSHI NOTE」を制作販売しています。

「ZANSHI NOTE」は、多種多様な用紙を組み合わせているからこそ、普通のノートにはないカラフルさと味わいを楽しめ、複数のサイズ展開があり用途に合わせて大きさを自由に選ぶことができます。普段だと捨ててしまう残り紙の種類の多さを逆に活かし商品化しています。

元々は、社内のデッドスペースに置いてある残紙をなんとかしたいと始まったプロジェクト。現在ノートは約18種類にまで増え、取引先も少しずつ広がっています。また、制作は息子さんが担当印刷所内の就労継続支援B型事業者の皆さんがつくっています。

環境や脱炭素への取り組みで始めたというより、会社の特徴を活かしたもったいないものを価値に変えるという意識で生まれた「ZANSHI NOTE」。身近だけど少しずつごみを減らし、企業にとつての有益な活動にも繋がっています。



岡ゼロニュース

はじめまして！岡崎市役所ゼロカーボンシティ推進課です！記念すべき初回は、皆さまのご家庭やお店に送られる「電気」について。

私たちの生活に必要な不可欠な電気。電気を使うだけで、地球温暖化の主な原因の二酸化炭素が排出されていると知っていますか？

その理由は、日本の発電方法。日本の電気の約7割は、火力発電によって作られています。火力発電は、天然ガスや石炭、石油などの化石燃料を燃やすため、多くの二酸化炭素を排出します。

一方で、太陽光や風力などの自然界に常に存在する再生可能エネルギーは、発電の際に二酸化炭素を排出しません。つまり、ご家庭やお店で使う電気を再生可能エネルギーにより作られた電気にするだけで、普段の生活を变えずに環境にやさしくできます。

かつて、私たちはどの会社から電気を買うか選べませんでした。しかし、電気の小売業への参入が全面自由化された今、電力会社や料金メニューを選ぶことができ、環境にやさしい電気は、いつでもだれでも手に入れます。岡崎市では、おいでんエネルギー株式会社と連携し、市内の再生可能エネルギーにより作られた電気を利用できる電気料金メニューを提供します。ご興味のある方は、是非QRコードからHPをチェックしてみてください！

次回
のニュートラル
ニュースでは、
おいでんエネル
ギーの取組をご
紹介します。



発行元 ニュートラルニュース実行委員会
岡崎市ゼロカーボンシティ推進課
発行月 2025年4月
印刷 合資会社永田印刷所
企画・編集 Micro Hotel ANGLE (合同会社シテン)
ライティング Micro Hotel ANGLE (合同会社シテン)
デザイン 岡田侑大(ケルン)

ニュートラル
ニュース
とは

地域情報紙「ニュートラルニュース」は、QRUWA 7町エリア(亀井・籠田・連尺・東康生・南康生・唐沢・伝馬一丁目)で暮らす人や働く人たちの「今より一歩、心地よい暮らし」についてお届けします。そして、実はそれが環境にやさしい取り組みで、その輪を地域に少しずつ広げることを目指します。